令和7年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：8月19日（火）
会　場：田幸コミュニティセンター
参加者数：21人

◎テーマ①：子育て、教育環境の継続と充実

【趣旨説明（田幸地区町内会連合会）】
田幸地区では、保育所、小学校、中学校や高校が、幹線道路である県道糸井塩町線沿いにあり、多様な連携によっていろいろな事業展開が可能になっている。これは田幸地区の強みと思っている。子育て・教育環境に恵まれており、移住者が多い。その証拠に、過去5年間で4歳以下の増加率は市内で一番である。今年度、田幸小学校は創立150周年を迎え、小学校、PTA、住民自治組織の3者で実行委員会をつくり、記念事業を実施している。その第1弾が、人文字の取組である。地元4年生の子が、この人文字に関する投書を行い、地元新聞に掲載された。現在、三次市内では、小・中学校の再配置が関心事になっているが、市政の動向に影響されない、田幸地区に特有な子育てや教育環境の継続と、安全・安心な通学路等の整備について意見交換をしたい。

参加者の発言	市の発言	備考
・田幸地区で生まれ育ち、県外に一度出たが、田幸地区に戻ってきて子育てをしている。田幸地区で子育てができることは非常に嬉しく、いろいろな方から田幸地区の地域性や協力体制を羨ましがられる。マーケットをコロナ禍に立ち上げるとともに、「田幸縁日」を実行委員長として実施した。縁日当日は雨となったが、約200人の参加者で，大いに盛り上がった。子育てをしながらの準備は大変であったが、頑張ってやってよかったと感じている。 ・学校統廃合の話が急に出てきた。いろいろな噂も飛び交っているが、噂だけを信じてはならないと思い、市役所に直接話を聞かせてもらうなど、自分で知る努力はしてきた。なぜこれほど急ピッチで市全体の小・中学校統廃合の話が出てきたのか、その理由が市民には見えていない。 ・小学校がなくならないために、私たちもできる限りのことを何年か前からやってきているつもりであるし、これからもやっていきたい。統廃合は最終手段として、まずは「頑張りたい」と思っている地域の気持ちを大事にしてほしい。決定したので一律になくすという形では、これまで頑張ってきた気持ちが折れてしまう。寄り添って丁寧に話をする中で、納得のいく形で進めてほしい。市もサポートする形で地域が努力し、それでも人口が減ってしまった場合にやむを得ずという形にしてほしい。	・田幸地区の子どもたちの支援や地域づくりに取り組んでいただき、感謝する。再編計画は令和5年度から着手しており、急に出てきた話ではない。教育については、一定の人数が必要であると、保護者や地域の方々とも話し合ってきた。自分の学校のことを冷静に客観的に見ることは難しいが、市全体で考えなければならない。アンケート調査では、児童・生徒や保護者から学校の一定規模（小学校では1学年10人以上、中学校では2クラスなど）を望む声が圧倒的に多かった。そのような中で、今の教育環境をもっと考えていくために、令和5年度に三次市総合計画を策定するタイミングで、みよし学びの共創プランという人づくりの計画も策定した。プランの内容は、いろいろな友達と交り合いながら思い切ってたくさんのことに挑戦できる環境や、一人ひとりが安全・安心に過ごせる環境を整えること、多様化する子どもたちの様々な課題がある中で学校全体の環境を見直していくことが必要だとしている。このプランを実現していくために基本方針をつくった。社会が急激に変化する中で、AIの台頭などで情報が溢れているが、子どもたちが自分の頭で考える力や新しい価値を創造する力を育む教育環境を早急に整備する必要がある。子どもたちの義務教育での学校生活は小学校と中学校の9年間しかなく、本市の課題と国全体の課題を放置せず、市教育委員会の責任として一つの計画を示させていただいた。丁寧な説明をさせていただきながら、理解と協力を得て進めていきたい。何よりも、子どもたちが思い切ってやりたいことができる、いろいろな人たちとつながって自分の力を発揮できるようにしたい、学校に行きにくい子にも行ける環境を整えてやりたい、しんどい子どもはしんどい子どもとして丁寧に対応できるような環境にしてやりたい。これらは、三次市全体でつくっていくことが大事であると説明しているところである。 ・再編計画は、市教育委員会が中心に進めているが、市長部局も連携しており、アンケート調査や市総合教育会議などの手続きを踏んで、議会に対しても丁寧に説明している。自分の地域から学校がなくなるという不安感を多くの皆さんが持たれていることから、今の計画がどのような内容で、現状はどうなっているのか、今後10年の子どもの数の推移などについて、地元の皆さんや保護者の皆さんと対話を重ね、不安を取り除きながら進めていきたい。 ・市教育委員会による、保護者の皆さんを対象とした説明会や地域の皆さんを対象とした説明会などでは、今後の地域づくりへの課題や小学校再編計画への不安が出ている。今後も、説明会等を計画的にさせていただき、皆さんとしっかりと対話をしていきたい。	
小・中学校の再編を急ぐ理由について聞きたい。		
本日の資料には、学校づくりについて大事なことが書かれている。県外に出て、いろいろな人と関わったことにより、地元の良さが見えてきたし、自分自身を見直せた。少人数では難しい面もある。越境部という形で、自分の地元から出て、もう1度地元を見ることは非常に大事である。今後、学びの多様化学校などができて市外から学びに来る人がいた場合、その人たちへの補助制度を検討してほしい。家を建てる等の定住対策補助ではなく、学びに来ること自体への補助はないか。地域と一緒になって学校を面白くしようとなったときに、他地域の人たちが入ってくることができる補助がいるのではないか。	一生懸命に考えていただき、活動していただいているからこその話と実感している。現状を負のイメージとして捉えて切り捨てていくのではなく、庄原市や安芸高田市などの中山間地域、あるいはそれ以外の広島県および日本全国も見据えて考え、新しい価値を創造する人が育っていく三次市をめざしている。新しい価値とは、例えば、今まで積み上げてきたものや改善してきたものが、もっとよくなるというよりも、今はないが、みんなが喜ぶものや便利になるもの、みんなが幸せに感じられるようなものを自分たちで生み出すということである。また、多くの人たちが楽しそうに活動しているなどの、中山間地域のモデルになるようなまちをめざしている。そういうモデルになると、いろいろな人や資源が集まるハブになる。三次市は縄文時代からいろいろな人が集まり住んできた地域であり、未来にむけても、人づくりをやっていけば、そのような町になるという強い思いがある。第3次三次市総合計画のつながり人口や関係人口としては住んでいただくことが一番いいと思うが、面白いから行ってみたい、あそこで過ごしてみたい、しんどいときはここでリフレッシュしたいなども含めて、いろいろな人たちがつながっていく場所にしていきたい。子どもたちが、保護者や地域の皆さんを支えにして、一生懸命、自分たちの力を磨いていくことができる学校環境は、小学校と中学校の9年間しかない。三次市での学びに期待して来ていただくために、一緒に支援策を考えたい。	
0歳時から保育所に入れるようになったため、3歳以下の子どもが入所できず、保育所の人数が少なくなり、違う小学校に行ってしまうという危機感がなくなった。現在では、小学校と保育所がほぼ同じ人数になった。住民たちが早くから危機感を抱き、取組んできた結果、維持できている。全国的に見て、統廃合はもう致し方ないとは思うが、統廃合を考える前に、魅力ある学校、魅力ある三次市をつくることを第一に考えてほしい。いろいろな人の力を借りて、三次市の人口が増えるように、魅力ある教育で子どもたちがどんどん学びに来るようにしてほしい。人数をこれ以上少なくしないためにどうするかを考えた上での統廃合という話であれば住民も納得できる。人数が少なくなったから統廃合という印象でしかないため、もっと魅力ある学校、魅力ある三次市をつくるためにどうすればいいかのということを発信してほしい。		

令和7年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：8月19日（火）
会　場：田幸コミュニティセンター
参加者数：21人

◎テーマ②：郷土愛を育んでいくには

【趣旨説明（田幸地区町内会連合会）】
田幸地区では、最大で約3，000人が住んでいたが、現在は約1，230人である。田幸地区の大部分を占める農家の担い手不足や農地保全の維持が課題となっていたことから、農村RMOを始めて，課題解決に取り組んでいる。次代を担う世代に郷土愛を育み、「ずっと住み続けたいまち田幸」を実現するためにいろいろな活動をしている。古くからシンボルマークを作成するなど郷土愛をテーマに取り組んできた。次代を担う子どもたちが地域に戻ってくるために、地域がやるべきこと、市が田幸地区に期待すること、市と地域が協働で取組めることなどについて意見交換したい。

参加者の発言	市の発言	備考
郷土愛を育むためには、今の子育て世代が、一度市外へ出ても帰ってくるような子どもを育てることが重要である。地域の過疎が始まるのは、子どもが出て行って帰ってこないことが一番の原因ではないか。郷土愛が育まれていれば、三次市に帰ってくるのではないか。三次市内でもいろいろな楽しいことができて、住んでいいなという思いを持ってほしい。いろいろな世代が、一生懸命声掛けを行い、三次市は楽しいと発信していく必要がある。また、子どもが育つ環境を良くしていくことが地域の務めである。先日、三次青陵高校と塩町中学校への通学路が暗く、不安であることから、署名を集めて市に要望書を提出した。このように、子どもを育てる環境を良くしていき、子どもたちが増えて、いろいろと学び、郷土愛を育んでいくことが過疎化を防ぐことにつながる。	要望のあった県道糸井塩町線の暗い箇所については、道路照明を設置する方向で検討を進めていく。具体的な設置場所や基数については、内部で検討し、地元の皆さんとも協議しながら改善に取り組んでいく。	
塩町駅周辺は朝の時間帯、歩行者や自転車、そして送迎の車で大変混雑している。そのため、塩町中学校と協議をし、塩町商店街の時計店にある広い駐車場で乗り降りさせて、そこから歩いていくように指導もしてもらった。これによりだいぶ緩和しているが、渋滞状況は解消されていない。塩町駅から郵便局方面にある休耕田を市で買い上げ、駐車場やロータリーとして整備してほしい。公園も併設すると景観もよくなる。これにより、送迎の利便性が向上し、交通渋滞が緩和される。三次青陵高校も生徒数が増えており、塩町中学校には各地域から生徒が通っている。3年後には三和中学校も塩町中学校の校区になる予定であり、それまでに整備を実現してほしい。塩町駅は福塩線や芸備線のポイントとなる駅であり、駐車場ができれば、JRの利用者増加や地域活性化にもつながる。	塩町駅前の空き地を活用した駐車場等の提案は、広い視野で課題解決の方法を検討していくための一つの案として受け止めさせていただきたい。	
田幸小学校は、先生と地域の方々の協力のもと、野菜やブドウ、米作りなどの体験学習を積極的に行っている。1、2年生は野菜、3、4年生はブドウ、5、6年生はお米と、それぞれ栽培して収穫するだけではなく、PRや販売に関して考えるなど、いろいろな授業をやっている。この素晴らしい取組が、キャリア教育の優良校として全国に推薦・表彰されるように協力をお願いしたい。150周年に花を添えていただければと思っている。	・田幸小学校の取組は市内でもモデルとなる素晴らしいものである。地域の魅力や文化・歴史などの特色を生かしていく学びは、各小学校でやっている。校長先生から詳細を伺い、その特色や魅力を発信できるよう市としても伴走したい。塩町中学校も文部科学大臣表彰を受けた実績がある。当時は、一人一研究として、1年間かけて研究して、発表する中で、いろいろな力を身につけていくことが特色であった。今後も、他にもない、見習いたいモデルを一緒につくりたい。 ・キャリア教育について、自分が幸せになる、自分の大切な人や周りの人が幸せになるために貢献していく力を身につけることが重要である。現在、市全体でカリキュラムを見直しており、「0→1体験」、「地域先端体験」、「越境体験」を3つの柱として、さらに素晴らしいキャリア教育に磨きをかけていきたい。「0→1体験」とは、今までにない何かを自分たちで生み出していく体験をさせる学習であり、「地域先端体験」は、地域のたくさんの魅力と直接かかわることや日本・世界の最先端を学習すること、そして、「越境体験」は、自分の地域やテリトリーから出ていって、外から自分の地域を見るなどによって、自分の可能性を伸ばすとともに、広い世界を知るというものである。 ・越境体験に関して、今年度、「TRI－NEXT越境部」という取組を始めた。市内の子どもたちが大崎上島町を訪問し、山で育った子どもたちには、海という環境が非常に新鮮であったと思う。子どもたちの感想を聞かせていただくと、他所に行って初めていろいろなことを学べたこと、他所のすばらしいものも感じることができた、そして外に出たことによって、三次市のすばらしさと比較できたなど、子どもたちの純粋な捉え方を感じさせてもらった。豊田教育部次長は、島留学といった形で、本島から海士町に子どもたちを呼び寄せて、いろいろなことを実践されてきた。この経験を生かしてもらいながら、山という環境を一つの大きな磁石にするという意気込みでチャレンジしていく。また、「TRI－NEXT越境部」や「教育カリキュラム」、不登校に関する取組も実践していく。三次市全体で教育の魅力化、学びの磁石にしていくなど、多くの保護者や子どもたちに注目してもらうように、引き続き、しっかりと発信しながら、学校の魅力化に向けた取組につなげていきたい。	
田幸地区は地域農業が主ということで、子どもたちの農業体験的な学習において協力をいただいている。田幸地区の出身者がUターンされ、この地域で家庭を持たれている方が多い。学校と地域、家庭がバランスよくつながっていることが田幸地区の魅力である。人口を減らさないためにも、この関係をずっと持続させていくことが大事である。今の保護者の方は、そのうち保護者を卒業されるが、次は、地域住民として、学校にも新しい子どもたちにも関わっていただく。そこに新しい保護者も入っていくというような持続可能な関係が構築されている。このサイクルがしっかりしていれば、田幸地区で育った子どもたちは、田幸地区でまた子育てをしたいと思うようになるのではないか。自分の保護者だけではなく、地域の人とも、いろいろな関わりができる子どもたちが育てばいいのではないか。田幸小学校の学校教育目標を「ふるさとを愛し　主体的に学ぶ　ポプラっ子の育成」としている。子どもたちが地域の意欲にもつながっており、今後も、地域や保護者と相談しながら取組をしていきたい。	コミュニティ・スクールの取組を全市的に進めているが、田幸地区では地域の皆さんのつながりによってごく自然にできていると感じている。田幸地区の「ふるさとランチ」の取組は、新しい学校給食センターを建設する際の大きな参考になった。田幸地区のふるさとランチは、地産の不揃い野菜を使用することで、子どもたちの食育につながっていた。こうしたいい取組は未来につなげていきたい。地産地消や食育の素晴らしいモデルであり、今後も力を入れていきたい。農業をされる皆さんの就業意欲につながるとともに、自分たちの子どもは地域で育てるという気持ちにもつながってくる。毎月19日を食育の日とし、市民の皆さんに学校給食を食べていただく機会を提供しているが、非常に好評である。先般、文部科学省の広報誌に、三次市の学校給食の取組が掲載された。	

令和7年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：8月19日（火）
会　場：田幸コミュニティセンター
参加者数：21人

◎テーマ③：行政と住民自治組織との共創

【趣旨説明（田幸地区町内会連合会）】
８月１０日の大雨の際、田幸地区では「田幸縁日」の準備を終え、開催直前だった。そのタイミングで市から避難所開設の連絡があったが、結局、注意報止まりだった。市が一斉に避難所を開設する際、各自主防災組織などに状況を確認するなどの連携があっても良かったのではないか。市は基幹避難所を開設する義務があり、その判断を優先せざるを得ないが、市と地域で防災をしていくものであり、臨機応変な部分があってもよかったのではないか。市と地域の防災における関係性について考えたい。

参加者の発言	市の発言	備考
	避難体制について、市民の命を守ることを第一に考えている。災害が想定される時には、常に、気象庁と連絡を取り合って情報収集している。８月１０日は、気象庁から、「夜の８時から９時にかけて、警報級の雨が降る可能性が高い」との予報に基づき、夜間の危険な時間帯の避難を避けるため、明るいうちに自主避難所として開設した。独りで一晩を過ごすのは非常に不安という人も中におられ、三次市内では、実際に基幹避難所に避難をされた方もいる。結果的に注意報で済んで安堵しているが、判断の基本は市民の命と暮らしを守ることにある。自主防災組織との連絡のやり取りは重要であるが、危機が目前に迫っている際に、市内１９地区と意見交換をしている時間はない場合もある。両方を注視しながら柔軟に対応したいが、基幹避難所開設の最終的な判断は市が責任を持って行う必要があると考えている。	